

「たっぷり愛して しっかり認めよう ～子どもの自己肯定感を育む関わり方～」

親育ち応援学習プログラム ファシリテーター 榎原 愛氏 川上 富子氏



参加者の感想

- 知らない人同士で和気あいあいとお話ができ楽しかったです。「自分だけではない」ということや「他の方も同じように褒めてあげている」など、共感できたことが良かったです。このようなディスカッション風の講演会だとより自分の中で腑に落ちることも多くあるので、また機会があれば参加してみたいです。
- ワークルールのひとつ「否定しない」でお互いを受け止めることができたなら、親子共に自己肯定感を高めていけると思いました。普段から否定しないで共感することを念頭に置いて、落ち着いてから話すように気を付けて、子どもとの楽しい今を大切にします。このような機会をいただきありがとうございました。
- 子どもたちの自己肯定感を上げられるよう意識して子育てしているつもりでしたが、講演会を聞いて他の保護者の方と話して、忙しさに雲隠れしている部分に気づけました。子どもたちの未来を良く作ってあげられるようにスキンシップや会話を大切に、褒めて感謝して生活したいなと思いました。

「夢育 ～これからの教育が目指すもの～」

岡山大学 学術研究院教育学域
教授 鍵本 芳明氏



参加者の感想



- 身近なところから興味を見出すことが高学年になるほど難しくなっています。すてきな人との出会いや様々な体験の場を増やし、夢育につながって欲しいと思いました。
- 「〇〇になりたい」が言える子には「なってどうしたいか」を聞くということを、家に帰ったらしてみようと思います。そして自分自身も小さいながら「夢」を持ち、子どもと接していきたいと感じました。
- 子どもが夢を実現するためのサポート方法について、具体的に聞けてよかったです。
- 親として子どもにいろいろな体験をさせたり、前に進むことをためらっている姿を見たら応援したりしたい。
- 子どもがやりたいことを全力でサポートできる親でありたいと思います。自分で考える力を学校や家で身に付けていってほしい。
- 夢を持てるような子育てを心掛けたいと思います。6年生の講演を聞いている姿勢が素晴らしかったです。

「自分でできたよ！うれしいな ～入学までに応援できること～」

親育ち応援学習プログラム ファシリテーター 仁科 美代子氏 白神 恵美氏



参加者の感想

- 子どもとの関わりや過ごし方を振り返ることができ、新しい学びができました。普段なんとなく過ごしていたところにポイントを当てて、これからは子どもとの関わりにもう一工夫しながら日々を過ごしていきたいと思いました。またネット問題も難しいところなので、今のうちからしっかりと会話をし、問題が起きないように知らせていきたいです。
- 4人グループで他の人と楽しくお話ししながら、子どもについての不安や悩みごとを解決する糸口が見つかり、とても有意義な時間でした。小学校までに色々と身につけて欲しいことがあるので、根気よくほめて、親子共に楽しく生活できたらと思います。自分の気持ちを話す、相手の話を聞く、共感能力を高めるために、普段の自分の言動を変えていこうと思いました。
- いつも気にしながら過ごしている話が多く、復習しながら聞けました。気付きもあり学ばせてもらいながら楽しい時間を過ごせました。子どもとのコミュニケーションをもっともっと取っていこうと思えました。こういう振り返る時間も大切だなと感じました。

「みんなで取り組む 地区防災計画」

香川大学 地域強靱化研究センター
特命准教授 磯打 千雅子氏



参加者の感想

- 地域で取り組む防災についてあまり考えたことはありませんでしたが、地域の協力の大切さを強く感じました。
- 岡山県は災害が少ないので、南海トラフ地震が起きてもなぜか大丈夫だろうと、多くの方が思っていると思いますが、日頃から備えと地域との関わりが大切であると思いました。
- 普段、防災意識の低い自分を振り返る機会になりました。どちらかというと地震より水害の被害が心配なので、備えを考えておくなくてはいけないと思いました。
- 防災の重要性を感じました。家庭用の小さなことからやらなければと思いました。
- もっと真剣に防災に取り組まねばと思いました。ローリングストックをもっと増やし、災害に備えてもう少し備蓄を進めていきます。
- 自分が住んでいる地域の危険度や環境などを知り、みんなで取り組む必要性を学びました。今後は、無関心の方々が少なくなるように取り組みたいと思いました。
- 大変勉強になりました。今年になって地域の役をすることになり地区防災計画の位置付けがよくわかりました。
- 倉敷地区は被害が少ないとの考えが強かったが、最近洪水被害が増加しており、これから来ると予想される南海トラフが発生したら何をすべきか、考えることができました。家族で準備や避難経路について話し合うようにしたいと思いました。